

(範囲)

感情の諸定義

一～四八

感情の総括的定義

二,三(説明)(喜び、悲しみについて)

私は移行と言う。なぜなら喜びは完全性そのものではないからである。すなわちもし人間がその移行する完全性を生まれながら持っていたとしたら、彼は喜びの感情なしにそれを所有したであろう。

欠乏は無であるが悲しみの感情は一個の積極的な状態だからである。

喜びはより大なる完全性への移行で、完全性そのものではない。

金持ちの恵まれた家に生まれても、喜びを知らずに育ったり、恵まれない環境で生まれても些細なことで喜びを感じたりするのは、現状からの移行することが喜びだから。

また元々ない状態は無だから悲しみにはならず、悲しみは今の状況からより小なる完全性へ積極的に移動して感じる感情。これは喜びよりも誰の手も借りずに一人で手軽に取り扱いやすい感情のように思う。

四

驚異とは・・・精神がその表象に縛られたままでいる状態

単にある物の観想をやめて他のものを思惟するように精神を決定するような原因がかけられているという事実からのみ生ずる

驚異とは精神の縛り・・・ある物を観想し続けている状態。他のものを思惟するとその縛りが外れる。

五

軽蔑とは・・・

その物自身の中にある物よりもむしろその物自身の中にないものを表象するように動かされるほど、それほどわずかししか精神をとらえるところのない事物の表象である

それほどわずかししか精神をとらえることのない事物の表象・・と説明しているので、その人に興味がないのかと連想するが、逆に無いものを表象するように動かされている...積極的にないものを表象している状態なのかと理解した。そうすることで何かしらのバランスを保つための衝動なのか。

六

愛とは外部の原因の観念を伴った喜びである

意思によって愛する対象と結合しようとするのが一特質だと私が言う場合・・・

意思という事を愛する対象の現在のゆえに愛する本人が感ずる満足、それによって愛する本人の喜びが強化されあるいは少なくともはぐくまれるその満足と解する

七

憎しみとは外部の原因の観念を伴った悲しみである

――

嘲弄とは・・・軽蔑する事が憎む物の中に・・・それを表象することで生ずる喜び。

嘲弄とは喜びの一種。

喜びとはより大なる完全性への移行。

確かに誰かを嘲弄している人は笑っている。

その方法でしか笑えない状態の時もある気がする。

憎む物を軽蔑する限りにおいてそのものの存在を否定する⇒喜ぶ

しかし人も同じようにその物を憎んでいると仮定している⇒基礎の弱い喜び

多くの場合、嘲弄している人自身が軽蔑のまなざしを受けている

一二、一三、一四、一五

希望→安堵

恐怖→絶望

結果について疑っている原因が取り除かれると左から右へと移行する

原因を取り除く・・・我々は個々のものの結果について決して確実であり得ないとしても、疑わないという事は起こりうる。ある物について疑わないということとその物について確実性を有するという事は別問題だからである。

二一

買いかぶりとはある人について、愛のゆえに、正当以上に感じることである

愛とは・・・外部の原因の観念を伴った喜び

その人が原因の観念によって喜びを感じている場合、その人を正当以上に感じてしまうこと

二三

ねたみとは他人の幸福を悲しみまた反対に他人の不幸を喜ぶように人間を動かす限りにおける憎しみである

憎しみ・・・外部の原因の観念を伴った悲しみ

悲しみ・・・より小なる完全性への移行

自分の完全性が下がるのを食い止めるために動かされる衝動がねたみ・・・？

三四

感謝あるいは謝恩とは我々に対して愛の感情から親切をなした人に対して親切を報いようと努める欲望あるいは同様な愛の情熱である

お母さんが子供に、「ありがとうは？」とお礼を催促したり、あの人は感謝が足りない、と批判したりするのは、その人自身の欲望や情熱をコントロールできるものと勘違いしているからか。だからそのやり取りに気持ち悪さが伴う。